

# 高校神奈川

発行人 馬鳥 敦  
 編集人 富貴大介  
 横浜市西区藤棚町 2-197  
 高校教育会館内  
 神奈川県高等学校教職員組合  
 TEL 045(231)2479  
 FAX 045(231)2536  
<http://www.fujidana.com/>

## こんかいの紙面

- 退職ひとことメッセージ 3
- 憲法フォーラム報告 3
- 5.3憲法集会 3
- 高校改革要求 4
- フレッシューズ・ヴォイス 4
- 特集!
- ぴっかり図書館インタビュー 2

## 氷取沢高校ジャズ部が演奏

第88回かながわ中央メーデーが4月29日、みなとみらいの臨港パークで開催され、約9000人が参加しました。メインステージでは氷取沢高校ジャズ部が演奏を披露しました。神高教からは、永田書記次長がメーデー宣言を読み上げたほか、くじ引きイベントを開催し、メーデーを盛り上げました。

## クラシノコアゲを実現しよう!



氷取沢高校ジャズ部による演奏

## 第88回かながわ中央メーデーに 市民・組合員約9000人が参加

4月29日(土)、臨港パーク(みなとみらい)横浜市中区)で、「第88回かながわ中央メーデー(主催：連合神奈川)」が開催され、約9000人の組合員・市民が参加しました。今年のメーデーは、「クラシノコアゲ・底支え、格差是正の実現」ともに、長時間労働を撲滅し、ハッピーライフを実現しよう」をメインスローガンに様々なイベントが催されました。メインステージでは、氷取沢高校のジャズ部



メーデースローガンを読み上げる永田書記次長とユニオニオン君

がジャズの名曲を演奏し、メーデーを盛り上げました。連合神奈川の柏木会長は、「メーデーは、今でいうデューセントワーク※を求めてきた歴史だ。一方で現実には、長時間労働で命や健康を損なう仲間があとを絶たない状況が、今も



## 新採用歓迎パーティー、今年も大盛況

### 新採用・若手約2000人が参加 青年委員会が企画

「新採用歓迎パーティー」が5月11日、クルーズ・クルーズ・横浜で開催されました。約2000人の新採用・若手教職員が集い、横浜の夜景を背景に、親睦を深めました。組合の魅力の紹介のほか、恒例のクイズ・イベントなど、青年委員会が趣向を凝

らした企画を実施し、参加者を盛り上げました。神高教「通勤費緊急貸付」の活用を

採用者の通勤手当が5月の給与支給日に支給されない問題を受け、5万円・10万円の貸付を実施します。新採用歓迎パーティーで案内しましたが、各分会での周知をお願いします。詳しい利用方法等については、指示030号をご覧ください。



馬鳥委員長(左)と特賞の飯田さん(右)

が続いている。すべての働く者の連帯で「クラシノコアゲ」と、それを通じて未来への責任を果たさなければならぬ」と冒頭挨拶で語り、連帯を求めました。会場では移動動物園やヤキソバなどの食品販売などが行われたほか、高校生平和大使もブースを設け、ピースに参加する高校生たちが、核兵器廃絶と「高校生平和大使をジュネーブへ」と訴えました。

神高教からは、組合員・家族を含め約50人が参加し、メーデーを祝いました。毎年恒例、大人気のくじ引きイベントも行われ、今年は総合産業分会の飯田さんが見事、特賞の野菜セットを当てました。



満席の大講堂と講師の伊波さん

## GWは、憲法について考える 現憲法のもとで、「平和外交」重要

5月2日、「憲法を考える5・3県民集会 自治体外交の可能性」平和憲法の

活かし方(主催：かながわ憲法フォーラム)が、元沖縄県宜野湾市長の伊波洋一参議院議員を講師に迎え、開催されました。

383人の参加者とともに、現憲法のもとでの平和外交の重要性について学習を深めるとともに「人権と平和、民主主義を守るために憲法「改正」に断固反対し、国民無視・地方自治の破壊を許さない」とする集会アピールが採択されました。(関連3面)

## 労働教育の実践を共有 連合主催のシンポで

## 「ワークルール教育は必要」

神高教アルバイト問題調査ワーキンググループ

4月18日、連合主催の「労働教育」や「主権者教育」を扱ったシンポジウムが開催され、神高教アルバイト問題調査ワーキンググループの中山さん(舞岡)が、労働教育の実践を発表し、高校現場での労働教育の重要性について、集まった市民、教職員と共有しました。



労働教育の実践を発表する中山さん

「労働教育および主権者教育に関するシンポジウム」若者が安心して学び働ける社会の実現に向けて(主催：連合)が開催され、約2000人が参加し、労働教育の実践や、主権者教育について学習を深めました。

神高教からは、中山拓憲さん(舞岡分会)がシンポジウムに参加し、神高教アルバイト問題調査ワーキンググループのとりくみを紹介するとともに、高校現場

での労働教育・ワークルール教育の実践や、課題について提起しました。中山さんは、「ワークルールについての外部講師を招いた授業の中で『時代の単位は?』と講師が生徒・教職員に尋ねたところ『分単位』であることを答えた人がほとんどいなかった。ワークルールについての理解が十分ではない」と指摘し、また、「授業アンケートで大多数の生徒が『役に立った』と回答

していることから、ワークルール教育は現場で求められている」と、その必要性について訴えました。さらに、「ワークルール教育について、学校全体のとらきみで行っているところはまだまだ多くはないのが現状。さらに、生徒がアルバイト等でトラブルが起きた際、相談できる窓口が学校にはないのも課題」と、ワークルール教育における課題について指摘しました。

格差が拡大する中、ブラック企業、ブラックバイトの問題に対して、高校現場は無関係ではいられません。今後、神高教は高校生をとりまくアルバイト問題や、労働教育研究会の活動に、積極的にとりくんでいきます。